

スペイン史研究文献 (三)

——新世界植民活動に関する資料——

近 藤 仁 之

前回の「近世期人口編」に続いて、今回は「新世界植民活動」に関する研究文献の解題を意図するが、それと言うのも、これはスペイン本国史研究者のみならず中南米研究者にも看過しがたい史的意義を持つ画期的事象だからである。ただし、解説にあたって、本稿の執筆責任者は、その専攻上、社会経済面に専ら紙葉を割くことになるが、この主題に関しても隣接諸科学との協調的発展が渴望され、そうした多角的考察の進捗に本稿が一灯となれば筆者の喜びはまさに望外である。

楽観論と悲観論

新世界植民活動の実態に関する最近の統計的研究業績に論及する以前に、問題の所在を明示するため、本国人口趨勢との関聯において予め念頭に置くべきは、当時また近時の関係論稿中に見られる悲観論と楽観論との歴然たる対立である。

P. Fernández Navarrete⁽¹⁾ は、一七世紀初頭の「モリスコ追

放」(次稿参照)に次ぐ人口減少促進要因として新世界移住を挙げ、「カステイリヤの人口減少を促す第二要因は、低地諸邦における長期戦戦没者、イタリア・アフリカの守備担当者、我々の不覚から奴隷・捕囚の憂き目にある者、自発的なローマ居住者達も少なくないが、スペイン人が発見征服した新世界の植民にカステイリヤを去る多数の移住者であり、陸上海上の職務に適した四〇、〇〇〇を越える人達が毎年離国しているのは確かであって、そのうち母国に戻る者、結婚して育児に資する者は極く少数でしかない」と言う。

José del Campillo⁽²⁾ も「スペインの人口と聚落の不足には二因があり、その第一は新世界向け移民数の増加であると言われ、慎重な計算によれば、その数は毎年一〇、〇〇〇人に達するのであるから特別の注意に価する。……慎重な調整を行えば、彼等は毎年一四、〇〇〇人を上廻ることが解り、この計算に基いて問題を

進めれば、彼等は婚姻を通じて毎年最低八、〇〇〇人の子供を儲けうるであろうから、五か年間に移住者数は七〇〇、〇〇〇人、儲けうる子供四〇、〇〇〇人、合計、一一〇、〇〇〇人に及ぶものと算定される」と論ずる。

かかる本国の人口資源的見地からの移民流出に対する阻害要因は、Manuel Colmeiro, B. Moses⁽³⁾⁽⁴⁾ など一九世紀後半の歴史家の史観にも反映継承されているが、こうした移住弊害論者の挙げた数字は、大概、史料の根拠を欠く非科学的な主観に添うもので、その低い信憑度はもはや贅語を要しない周知の事実である。しかし、留意すべきは、彼等の主張自体は謬見として無下に一蹴したい当時の時代背景を体现している点である。ただし、一七世紀全般に亘る当国国勢の全面的衰微の一局面として観察されたあの顕著な人口減少、したがって、当時の政治担当者、経済知識人達が抱いた危機意識の論理的帰結がこの移住弊害論に凝結されているのである。

これに対して、移住運動を有害視せず、それを国民生活の窮迫と人口減少との緊密な自律的関係裡に把える Gerónimo de Uztariz⁽⁵⁾ は、移民供給中心地域に関して「多数の移民があつた諸地域(アメリカ)に去る諸県はカンタブリア、ナバラ、アストウリアス、ブルゴス山岳地帯、ガリシアであるが、それにも拘らず、こ

れらはスペインの最たる人口稠密地域、他方、トレド、ラ・マンチャ、グワダラハラ、クエンカ、ソリア、セゴビア、バリャドリ、サラマンカ等カステイリヤ諸県出身の西印度渡航者はごく少数に留まり、しかもこれらは最たる人口稀薄地域である」と言明する。この見解は移住中心地域を半島内陸部ではなく、北部沿岸地帯に置く点、示唆に富んで特に興味深いが、この際考慮すべきは彼の論述の時期が一八世紀以降に該当し、それはとりも直さず、近世後期に顕著化したスペイン人口の外端部沿岸地方への速心的拡散傾向、その結果北部臨海地帯で起こった稠密化、その自然的発露としての同地帯における移住活動の激化を物語っていることである。これは Luisa Cuesta, A. Meijide Pardo⁽⁶⁾ の論稿からも首肯される自明の現象であるが、それとは別に、この一八世紀の人口配分図と一六世紀のそれとが性格を全く異にしたあの歴史背景、すなわち近世前期における内陸部高原地方への求心的人口集中傾向を見落してはならない(前稿参照)。

更に、この移住中心地域については一六世紀に関しても論は分かれ、沿岸部と島嶼地域の重要性を説く Maldonado Macañaz, 新世界発見時の南部出身者の優勢さに言及する Hernandez de Oviedo⁽⁷⁾、初期植民地施政当局者間にみられるアラゴン系首脳者を挙げる Bartolomé de las Casas⁽⁸⁾、バスク地方出身者に触れる

Baltasar de Obregón⁴⁰⁾ 等があつて、これらのクロニスタ達の記述にみられる極度の混乱を前に我々は困惑してしまふのである。

しかし、それらの飽くまでも時間的、場所的に限られた見聞記的性格、したがって、その一部妥当性に対する配慮とその限られた信憑度に関する深慮を怠らぬ限り、これら当代人編年史家達の著述を通読する必要があるといふ今更論するまでもあるまい。

さて、K. Haber⁴¹⁾ は、一六世紀初頭の西印度向け移住開始期に関する限り、労働力の実際の減少がなかったとして移住による人的損失を軽視するが、一七世紀初頭以降の人口衰微期を論じて、「アメリカや軍隊駐留地向けの移住を Navarrete は明かに過大評価している。しかし、例えば、一六四六年の議会が、アンダルシア、その他の地域から、母国での荷斂請求を逃れて、多数の家族が植民地へ移住していると考えたのは事実である。そこで、この移住が本質的に重要でないとする Uztariz の主張には同意したい」と言う。つまり、彼は人口減少期（一七世紀）に激化したものと現研究段階では推定される移民流出の弊害を認めるのに客かではないが、さりとて、極度の誇張に対しては控え目ながら批判的態度を保持している。

他方、A. Girald⁴²⁾によれば、「新世界移住者数に関する概念形成はかなり困難である。K. Haber は一五七四年当時の西印度人

口に基いてカルロス五世治下の年間平均移民数を一〇、〇〇〇人弱であつたに違ひないと評価しているが、これは単なる仮説でしかありえない。移住は一六世紀にずっと増大したと思われる。…この（クロニスタ達の）誇張数を容認するにもせよ、この西印度移住がドイツ王家治下スペインにおける人口衰微の十分に決定的な動因であつたとは信じがたく、それは多種諸原因中に介在していたのである。彼等の大多数は貧困を逃避して故国に離別したのであつて、結局、移住は人口減少の副次的要因なのである」。

つまり、彼は資料的には誇張に満ちた当代人編年史家の記述に疑念を抱きながらも、その論拠を依然としてそれらに求めたため、前記ドイツ史家の「仮説」を上廻る移民数を暗示する結果になつたのであり、更に、一言付加すれば、彼の論旨の根底には、ハプスブルグ王家支配期に顕著な壊滅的スペイン国民経済の、一八世紀開始後、すなわち、ブルボン王家による王位継承後に始まる繁栄への転換をファナティクに特筆しようとする彼のフランス愛国心が、特に論文末尾に、明瞭に看取されるのである。

R. T. Davies⁴³⁾ は「移民実数の検出は不可能である。Navarrete は極端に誤った評価をし、Uztariz はそれを低減しようとした。その数が多きに達したのに疑問の余地がなく。López de Velasco⁴⁴⁾の言明によれば一五七四年頃新世界に三二、〇〇〇世帯があつた

とされ、これらの数値が正しいものとすれば、これ程早い時期においてすら合計約一五〇、〇〇〇のスペイン人居住者を意味するのであるから、移住による本国の年間損失は相当なものであったに違いない」と言う。つまり、このイギリス人史家は実質的には K. Habler 流の折衷的な移住弊害理念を継承するのみで、当主題を積極的に発展させておらず、更に、論究の時期を主に一六世紀に置きながら、Navarrete 批判についてはまだしも、前述したように時間的経過につれて実現された人口配分上の構造的転換に配慮せず、一八世紀に関する Uztariz の理念を無批判に導入した点、迂闊と言わねばなるまい。

それはともかく、こうした移住弊害論、悲観論が恰も主流をなすかのとき感を与える渦中であって、アメリカ合衆国の E. J. Hamilton は、その「価格革命」(別稿参照)で、「人口が財政上、軍事上の理由から少な目に申告されているのは確実であり、各地の住民数は増大していて、西印度移住による人的損失は無視しうる」との明らかに対照的な移住無害楽観論を展開している。この点、実は前稿「近世人口編」で指摘したごとく、ようやく定説化の段階にまで到達した一六世紀全般に亘る継続的人口増大説の実証的意義が重ねて再認識され、この統計史料の諸業績との比較関連裡に当移住運動の諸否を問えば、当時のスペイン人的資源に

事実上の減損がなかったことになり、こうして移住弊害説は、社会心理的にはともかくも、實際経験的にはその理論的妥当性を喪失せざるをえなくなっている。

こうした移住無害論の一翼として忘却しがたいのはフェリペ二世治下の西欧(地中海)社会を広角的に観察する F. Braudel の理念であり、彼によれば人口増加は当時の同地域社会に共通な現象であり、この人口圧の証拠の一つが同地域圏外への人口移動なのであって、「地中海が自己内部でのみ生命の維持をはかったと仮定すれば、四方、特に西方、大西洋に面する門戸を開いていなかったと仮定すれば、人口過剰という大問題を何等かの適当な方法で解決せねばならなかったことであろう。つまり、過剰部分を、その領域内で配分して、消化する以外になかったことであろう。」

結局、移住悲観論、楽観論のいずれがより正しく過去の経験的事実に則しているかを正当に評価し、最終的な断定を下し、真実我々を納得させる唯一の方法ないし根拠は言うまでもなく史料統計の実証研究を措いてないのである。しかし、以下行論中で示されるごとく、遺憾ながらようやくその緒についたばかりの未熟な現段階では、多数の問題点が未解決のまま残されており、この点、最新の研究成果を踏まえた J. Vicens Vives に従えば、「移住者に関する解答はいまだ明確ではない。『西印度綜合文書』Archivo

General de Indias の公証記録は、一五〇九—一五五八年に一五、四八〇名の移住者を挙げているのが、当該五〇年間に關する言及がない以上、この数は實際渡航者数から随分隔っているものと考えねばならない。……結局、もっとも慎重と思われるのは一六世紀中葉までに約一五〇、〇〇〇人のスペイン国民が新世界に移住したとの計算である。⁶⁸⁾この見解は疑いもなく、C. Pérez Bustamante, J. Rodríguez Arzuaga⁶⁹⁾による各県別移住者数の統計的算定結果と、西印度航行船舶数と登録移民数との乖離を明示する Juan Friede の研究成果とを簡略に記述したものであり、この意味で、これは明瞭に近時の実証的研究業績にその実質的基礎を求めており、こうして信憑度が著しく高められたのは否定しがたい。とはいえ、それがたとえ部分的ないし序論的にもせよ、この言明を上廻る程度に西印度移住運動の各詳細部が多面的に解明されつつあり、それらは後に挙げる現代文献中に略述されるが、それに先立って、当問題の解明に資する資料として殆んど唯一の原史料『西印度綜合文書』および幾つかの編纂史料集に触れねばならない。

- (1) Pedro Fernandez Navarrete, *Conservación de Monarquía y Discursos Políticos sobre la Gran Consilia que el Consejo hizo al Señor Rey Don Felipe III*, Madrid, 1626; Discurso VIII; De la

Despoblación de Castilla por los Nuevos Descubrimientos y Colonias, Biblioteca de Autores Españoles (Madrid, 1947), Tomo XXV, pp. 457 et seq.

- (2) José del Campillo, Lo que hay de más y de menos en España que sea lo que debe ser y no lo que es: Hay de menos Poblaciones; Bultr. ms. BN. 6196; (Madrid, 1669), pp. 102-103.

- (3) Manuel Colmeiro, *Historia de la economía política en España*, Madrid, 1863; 2ª ed., Madrid, 1965.

- (4) B. Moses, "The Economic Condition of Spain in the XVIIth Century", *Journal of Political Economy*, Vol. 1 (1893)

- (5) Gerónimo de Uztariz, *Teórica y práctica de comercio y de marina*.. Madrid, 1642; nueva ed., Madrid, 1968; Capítulo XII: Se procura manifestar que la despoblación de algunas provincias

de España, y su pobreza, no procede del descubrimiento, y posesión de las Indias, sino de otras causas internas... pp. 21-23.

- (6) Luisa Cuesta, "La emigración gallega a América", *Argutos do Seminario de Estudos Galegos*, tomo IV, 1932, pp. 141-217.

- (7) A. Meijide Pardo, *La emigración gallega intrapeninsular en el siglo XVIII*, Madrid, 1960.

- (8) Hernandez de Oviedo y Valdes, Gonzalo, *Historia general y natural de las Indias*, 1ª parte, Sevilla, 1535; 2ª parte, Valladolid, 1552; Madrid, 1851-1855 en 4 vols.

- (9) Bartolomé de las Casas, *Historia de las Indias*, 1535; Biblioteca de Autores Españoles, tomos 96-98, Madrid.

- (10) Baltasar de Obregón, *Historia de los descubrimientos antiguos y modernos de las Nueva España*, 1584 (Madrid, 1924) Bernal Díaz del Castillo, *Historia verdadera de la Conquista*

de la Nueva España, 1632.

Antonio de Herrera y Tordellillas, *Historia General de las he-
chos de los castellanos en las islas e tierra firme del mar oceano*,
Madrid, 1601-15.

Francisco López de Gomara, *Historia de la Conquistista de Mé-
xico: Hispania Victrix*, 1552: Biblioteca de Autores Españoles,
tomo XXII (Madrid, 1949), pp. 156 et seq.

Alonso Dorantes de Carranza, *Sumaria relación de las cosas de
la Nueva España*, 1604 (México, 1902) etc.

(1) Konrad Häbler, *Die wirtschaftliche Blüte Spaniens im 16. Jahr-
hundert und ihr Verfall*, Berlin, 1888, pp. 152-153.

(2) A. Girald, "Le chiffre de la population de l'Espagne dans les
Temps Modernes", *Revue d'Histoire Moderne*, núm 19, 1929, pp.
3-17.

(3) R. T. Davies, *The Golden Century of Spain, 1501-1621*, Lon-
don, 1964, pp. 264-265.

(4) López de Velasco, *Geografía y descripción universal de las In-
dias...reopliada por el cosmógrafo-cronista...desde el año 1571 al
de 1574*, ed. por Justo Zaragoza, Madrid, 1894.

因みに植民地人口趨勢に関して基礎的概念をいふものには有用な公刊業
績を以下に挙げておくが、本稿で検討中の植民地向け本國人口の流出
(移住活動)との関連裡に、新世界における人種的要素、すなわち、
白人、原住民——カリブ海域諸島では特に黒人——人口、各人種間か
ら生まれた混血人口についての配慮が肝要である。この際、大局的に
は、白人人口の継続的増加、それに対照的な主に疫病による原住民人
口の壊滅的減少、新旧両大陸人種間の教的乖離の必然的結果としての
混血社会形成上の史的進捗過程が把握されねばならず、この意味で特

筆すべきはアメリカ合衆国における近時の優れた原住民人口趨勢に関
する統計的人口史研究であり、それと共に混血社会形成過程の史的考
察の重要性は、一九六四年八月、ベルギーモントニエで開催された第三六回「
メキシコ研究国際会議」International Congress of Americanists や
并集論文に際しては、また、その意義を推察せねばならぬ。

R. Konezke, "Las fuentes para la historia demográfica de
Hispano-américa durante la época colonial", *Anuario de Estudios
Americanos*, tomo V, 1948, pp. 266-324.

Karl Sapper, "Die Zahl und Volkdicthe der indianischen
Bevölkerung in Amerika vor der Conquista und in der Gegen-
wart", *International Congress Americanists*, Proceedings, XXI,
1924, pp. 95-104.

H. L. Spinden, "The Population of Ancient America", *Smith-
sonian Institution Annual Report*, 1929, pp. 461-471.

L. B. Simpson, *The Encomienda in New Spain*, Berkeley, 1950
George Kibler, "Population Movement in Mexico, 1520-1600",
Hispanic-American Historical Review, Vol. 22, 1942, pp. 606-643.

Simpson, L. B., *The Repartimiento System of Native Labor in
New Spain and Guatemala*, Berkeley, 1938.

A. L. Kröber, "Native American Populations", *American An-
thropologist*, Vol. 36, 1934, pp. 1-25.

George Kibler, "The Quechua in the Colonial World", *Hand-
book of South American Indians*, Vol. II: The Andean Civiliza-
tions (Washington, 1946), pp. 331-410.

S. F. Cook & L. B. Simpson, *The Population of Central Mexico
in the Sixteenth Century*, Berkeley, 1958.

Woodrow Borah, *New Spain's Century of Depression*, Berkeley,

1951.

I. B. Simpson, *Exploitation of Land in Central Mexico in the Sixteenth Century*, Berkeley, 1951.

W. Borah & S. F. Cook, *The Population of Central Mexico in 1548: An Analysis of the "Suma de Visitas de Pueblo"*, Berkeley, 1960.

W. Borah & S. F. Cook, *The Indian Population of Central Mexico, 1531-1610*, Berkeley, 1960.

W. Borah & S. F. Cook, *The Aboriginal Population of Central Mexico on the Eve of the Conquest*, Berkeley, 1963.

Pierre Chaunu, "La population de l'Amérique indienne (Nouvelles recherches)", *Revue Historique*, 88e Année, tome CCXX-XII, 1964, pp. 111-118.

Charles Gibson *The Aztecs under Spanish Rule*, Stanford University Press, 1964.

George Kubler, *Mexican Architecture of the Sixteenth Century*, 2 vols, New Heaven, Yale University Press, 1948.

Miguel Othón de Mendizábal, La demografía mexicana. Época colonial, 1519-1599", *Obras Completas* (6 vols, México, 1946-1947); Vol. III, pp. 307-335.

近藤山正「メキシコ・インディアス國土賦(メキシコ)の人口趨勢と社會革命に關する統計的考察(近世前編)」『アカデミア』第七〇集、五五—九二頁。「英領西印度諸島に於ける砂糖革命の經濟的意義」『社會經濟史叢書』第五卷、三一一—三五五頁。

A. von Humboldt, *Essai politique sur le Royaume de la Nouvelle Espagne*, Paris, 1808: ed. castellana; Ensayo politico sobre el Reino de la Nueva España (México, sin fecha)

George Kubler, "Mexican Urbanism in the Sixteenth Century" *Art Bulletin*, XXIV, 1929, pp. 160-171.

Rodrigo A. Chaves González, *El mestizaje y su influencia social en América*, Quito, 1937.

R. Ferrero, "Destino racial del Perú: el mestizaje", *Obras y Trabajos Científicos del XXVII Congreso Internacional de Americanistas*, tomo II (Lima, 1939)

G. E. Marshall, "The Birth of the Mestizo in New Spain", *Hispanic American Historical Review*, Vol. XIX, 1939.

S. F. Cook, "The Population of Mexico in 1793", *Human Biology*, Vol. XIV, 1942, pp. 499-515.

Comas, Juan, "El mestizaje y su importancia social", *Acta Americana* 2, 1944.

R. Konetzke, "El mestizaje y la importancia en el desarrollo de la población hispanoamericana durante la época colonial", *Revista de Indias*, Año VII, 1946, núm. 23, pp. 7-44 y núm. 24, pp. 215-237.

Alberio M. Salas, "Crónica del mestizaje en Yucatán y la Nueva España", *Cuadernos Americanos*, Año XVII, 1968, núm. 6, pp. 145-172.

Mario Monteforte Toledo, "El mestizaje en Guatemala", *Cuadernos Americanos*, Año XVIII, 1959, núm. 1, pp. 169-182.

C. Pérez Bustamante, "El problema del mestizaje en Iberoamérica y el IX Congreso Internacional de Ciencias Históricas celebrado en Estocolmo (1960)", *Revista de Indias*, Año XX, 1960, núm. 80, pp. 221-235.

"Estudios sobre el mestizaje en América. Contribución al

XXXVI Congreso Internacional de Americanistas", *Revista de Indias*, Año XXIV, 1964, núms. 95-96 y Año XXIV, 1965, núm. 97-98.

Victoria Lerner, "Consideraciones sobre la población de la Nueva España (1793-1810): Según Humboldt y Navarro y Noriega", *Historia Mexicana*, Vol. XVII, 1968, pp. 327-348.

⑤ E. J. Hamilton, *American Treasure and the Price Revolution in Spain, 1501-1650*, Camb., Mass., 1934, pp. 298-299, etc.

⑥ F. Brandel, *La Méditerranée et le monde méditerranéen à l'époque de Philippe II*, Paris, 1949; *El Mediterráneo y el mundo mediterráneo en la época de Felipe II*, México, 1953.

⑦ J. Vicens Vives, *Historia económica de España*, Barcelona, 1959, p. 303.

⑧ C. Pérez Bustamante, "Las regiones españolas y la población de América (1509-1534)", *Revista de Indias*, Año II, núm. 6, 1941, pp. 81-120.

⑨ J. Rodríguez Arzu, "Las regiones españolas y la población de América (1509-38)", *Revista de Indias*, Año VIII, núm. 30, 1947, pp. 695-748.

⑩ Juan Friede, "The *Catálogo de pasajeros* and Spanish Emigration to America to 1550", *Hispanic American Historical Review*, Vol. XXXI, 1951, pp. 333-348; "Algunas observaciones sobre la realidad de la emigración española a América en la primera mitad del siglo XVI", *Revista de Indias*, Año XII, núm. 49, 1952, pp. 467-496.

史料・編纂史料

新世界移住史の解明に有用な資料として、部分的には先に引用したところ、当代クロニスタの記述、法的には渡航許可諸条件に関する勅許内容、実証的には植民地関係官庁記録を特に挙げねばならぬが、特に重要なこの最後のものについては、一五〇三年セビリヤ市に創設された「西印度商館」Casa de Contratación de las Indiasの記録が持つ著しい史料の意義は、はや言わずもがなの事実として知られている。この「商館」記録は、当国が今に残す史的大遺産、「西印度綜合文書館」Archivo General de las Indias 収蔵古文書の第三部門「Contratación (繰込総数五、八七三冊)」を形成しており、当「綜合文書」第五部門(Gobierno)に散在しているものを除いても、「商館」関係部門資料目録^{レギストロ}だけで、西印度渡航者関係分として四二二 legajos、具体的には一五〇九—一七〇一年に亘る『渡航契約台帳』libros de asientos de pasajeros (legajos 五、五三六—五、五四〇) および一五三四—一七九〇年に亘る『渡航者調査特許台帳』Informaciones y licencias de pasajeros (legajos 五、二一七—五、五三五) が保管されているのである。そのうち、一九四〇年代に整理の済んだ書類の数は一五〇、〇〇〇枚に達したものの、これら原史料のいく一部すなわち一六世紀前半関係分の組織的刊行、同世紀後半関係分につ

る部分の収録を除いて、現在からの貴重な史料の山で、大部分同「文書館」内に目の目を見なす草稿ドクメントの残骸もたゞ埋め続けられているものにも残念ならうと云える。

この目のか公刊をなすにあつた目の目眩ぢながらの草稿の埋積は別として移住活動の史的究明に際して現在、参照している基本的な編纂史料として特筆すべきは、

DIA = Colección de Documentos relativos al descubrimiento, conquista y colonización de las antiguas posesiones españolas de América y Oceanía, 42 vols (Madrid, 1864-1884)

DIU = Colección de Documentos Inéditos relativos al descubrimiento, conquista y colonización de las antiguas posesiones españolas de Ultramar, 25 vols (Madrid, 1885-1932)

DIHAM. = Colección de Documentos Inéditos para la Historia de Hispano-américa, 14 vols (Madrid)

Luis Rubio y Moreno, "Catálogo metodológico de las informaciones y licencias de los que allí pasaron, existentes en el Archivo General de Indias-siglo primero de la colonización de América, 1492-1592", DIHAM, tomo VIII, pp. 5-216

Cristóbal Bernúez Plata, Catálogo de pasajeros a Indias

durante los siglos XVI, XVII y XVIII, 3 vols; (Sevilla, 1930-1946); tomo I: 1509-34; II: 1535-1538; III: 1539-1559

Peter Boyd-Bowman, Índice geobiográfico de cuarenta mil pobladores españoles de América en el siglo XVI: tomo I; 1493-1519 (Bogotá, 1964)

やゝな DIA, DIU, DIHAM などなれば移住植民活動への資料集になへ、スペイン帝國海外領有地関係事項に関する全般的性格のそれであり、したがって利用者は全巻に亘つて散見される関係記事を丹念に渉獵せねばならず、例えば、

『一五七五年コンタリカ征服に総督アルティエダと同行せる者衆の調査記録』(合註三十三名) "Relación y lista de la gente que el gobernador Diego de Artieda lleva a la conquista de Costarrica (año de 1575)" DIA, tomo XV, pp. 261-300.

『なつてメンドーサに随行して一五六九年当時ラ・プラタ地方に在ける生存在住者達に関する報告』(七十名) "Relación de las personas que vivían en el Río de la Plata que fueron con Don Diego de Mendoza-1569", DIHAM, tomo IX, pp. 384-386.

『一五七三年六月一五日以来軍旗宣誓した武装せるナリー渡航

許可取得者に関する報告』(四九名判明)、“Relación de las personas a quien consta haberse dado licencia para pasar a Chile armados debaxo de bandera desde quince de junio de 1573 años”, *ibid.*

『一五七九年ヨリヤンシナ將軍麾下の船隊ペリネン渡航せる聖職者の名簿』(六一名)、“Lista de las personas eclesiásticas que fueron al Perú on la armada del General Don Bartolomé de Villavicencio, 1579”, *ibid.*, pp. 396-400.

『一五九二年総督兼軍司令官に随行、ヌエバ・アンダルシアおよびクマナ地方に赴いた渡航者に関する調書と特許』(授与特許数二〇五、独身者一五一名四九夫妻—子供同伴者も含む—聖職者五名)、“Informaciones y licencias de pasajeros-licencias presentadas por Francisco de Vides con el asiento de las provincias de Nueva Andalucía y Cumaná, de las que fue por Gobernador y Capitán General-1592”, *ibid.*, pp. 401-425.

『ヤンリヤム証人古記録—アメリカ関係資料目録』“Catálogo de los Fondos Americanos del Archivo de Protocolos de Sevilla”, DIHAM, tomos X-XIV (第1〇—11—1四巻には各々七〇—1〇1—四二事例がみられる) じある。

因みに、個々の支払請求、乗船契約に関する典型的具体例を挙

げれば、

「農夫モリーナはエスバニョ島までの船賃、食費としてサン・ペドロ号船長、ロベスに八金カステリヤノスを支払うべきこと」
Libro del año 1507: Asunto: Alonso de Molina, labrador, se obliga a pagar a Francisco López, maestro de la nao San Pablo, ocho castellanos de oro por razón del pasaje y mantenimiento en el viaje a la Española. (p. 51)

「ペレリャド商人アルバロの驃馬四番、酒袋八個、寝台一個、敷布団二枚、毛布二枚、敷布二枚、枕二個、衣類葛籠三個半、旅行者として契約者自身、その妻、子供二名、召使一名をエスバニョ島サント・トミンゴ港まで運ぶため、サンタ・マリヤ・デ・モンテマール号船長ニリーニョと同アルバロとの間に締結された「乗船契約」Libro del año, 1508: Asunto: Contrato de fletamento entre Francisco Niño, maestro de la nao Santa María de Montemayor, y Alvaro de Madrid, mercader, para que éste cargue en ella cuatro mulos aparejados, ocho cueros para vino, una cama, dos colchones, dos mantas, dos sábanas, dos almohadas, tres lios y medio de ropa, y como pasajeros el propio contratante, su esposa, dos hijos y un mozo, todo ello con destino al puerto de Santo Domingo en la

のごとくである。

さて、当主題そのものに関する特殊編纂史料として、まず、Rubio y Moreno の『方法論的渡航者目録』は、考証期間を「一九二二—一九九二年」と題するものの、実は前記の「西印度綜合文書館」に属する古資料中に収録されている『渡航者調査特許台帳』Informaciones y licencias de pasajeros に基き、一五三四—一五七五年における特許事例一、〇一八を抽出、それらに統計操作を加え、該当者各自の(1)出身地、(2)渡航目的地、(3)法的身分(聖職者、俗人の別、既婚未婚の別)、(4)社会身分(職業、役職、貴賤の別)を総合的に表示している。ただし、ここで便宜上、当該四一年間の各年当り特許発見数に段階区分を与えれば、記録皆無年度数一二、二二〇件一七年、二二一五〇件一〇年、五二件以上最高九六件二年を示し、したがって、その限られた考証移民数から、この『方法論的渡航者目録』の実際の価値は、実証的先駆作としての意義はさておき、移住活動の片鱗を提示するにとどまる。

次に、時の西印度綜合文書館館長 C. Bermudez Plata が同館員達の協力をえて、一九三〇—四〇年代に編纂公刊した『渡航者目録』(全三巻)は、収録移民数においても、その組織性におい

ても、もっとも注目すべき資料集であり、第一巻(一五〇九—三四年)で三、九一四例、第二巻(一五三三—三八年)五、六二〇例、第三巻(一五三九—五九年)四、五四〇例を網羅、体系的に引証している。

そしてここに挙げる引証具体例、

「靴屋フェルナンデスディエゴとフランシスカの子。セビリヤ出身。その妻マリア、子供アンナおよびエルナントと共にヌエバ・エスパニャへ。一五一七年四月二七日」 2550. Cristóbal Fernández, zapatero, hijo de Diego Fernández y de Francisca Fernández, natural de Sevilla, con su mujer, María Fernández y con Ana y Hernando, sus hijos, a Nueva España 27 Abril.

「コルドバ市民、ディエゴ・デ・コルドバとカタリナ・ロベスの子、フロンソ・ロベス。サント・ドミンゴへ。その妻テレサ、その子、エルビラ、マリア、カタリーナ、レオノールおよび彼の母カタリーナと共に渡行。一五二八年五月二四日」 3748. Alonso López, hijo de Diego de Córdoba y de Catalina López, vecinos de Córdoba, a Santo Domingo. Pasaron con Teresa López, su mujer, y Elvira López y María y Catalina y Leonor, sus hijos, y Catalina López, su madre-24 Mayo.

からも窺えるごとく、移住希望者各自、両親、同伴者の姓名、出身地、渡航目的地、渡航(許す)期日、時には職業等が明示されていて、この『渡航者目録』の素材的意義、その貢献度は、『方法的目録』とは比較にならず、まさに絶大である。それにも拘らず、この『目録』にすら資料的完全さは期待しがたく、収録年次に関する記録漏れ、混乱、紛失の大なる可能性もさることながら、当該五一年間中、記録欠如年度数は多すぎるのである。

次に、Peter Boyd-Bowman の『地理人名目録』であるが、実は彼が一九六七年に発表した論文の脚注によれば、第二巻(一五二〇—一三九九年)、第三巻(一五四〇—一五九九年)(合計二二、五三八名)の出版準備はすでに完了しており、第四—五巻に収録される渡航者達を加えて、一六世紀全期の移住者総計は四五、〇〇〇人に達するものと期待されるが、現在筆者は寡聞にして第一巻(一四九二—一五一九年)の公刊を知るのみである。しかし、前述の二『目録』が『西印度綜合文書』に全面的に依拠するのに対してこのスペイン本国側史料に、鋭意探索、渉猟した植民地側史料を加えて、全巻完成のあかつきには、『目録』を補って、望みうるもっとも詳細、綿密、組織的な移住関係資料たりうるのが、この『地理人名目録』であらうと予断して大過あるまい。

かかる編纂史料集が当主題の研究者に与える便宜にも拘らず、

その収録住者数が著しく限られているため、別種新史料の発見、それによる史料的不完全部分の補填が切望されるのであるが、『西印度綜合文書』の続刊すら絶えて久しい現状では、植民地側史料ないし植民各地に関する特殊資料の補完的役割が特に強調される。それで、植民地領域各地に関して参照すべき基礎的資料として重要なのは

Francisco A. de Icaza, Diccionario autobiográfico de conquistadores y pobladores de Nueva España, 2 vols. Madrid, 1923

B. Dorantes de Carranza, Sumaria relación de las cosas ...de los descendientes legítimos de los conquistadores y primeros pobladores españoles...Nueva España, 1902

Alonso de Zorita, Breve y sumaria relación de los señores de la Nueva España, 1942

Tomás Thayer Ojeda, Formación de la sociedad chilena y censo de la población de Chile en los años de 1540 a 1565, con datos estadísticos, biográficos, étnicos y demográficos, 3 vols. Universidad de Chile, 1939-43

R. de Lafuente Machain, Los conquistadores del Río de la Plata, Buenos Aires, 2ª ed., 1943

Robert Levillier, Biografías de conquistadores de la Argentina en el siglo XVI, Madrid, 1933, などがある。

まずメキシコに関する F. A. de Icaza の『ヌエバ・エスパニヤ征服・入植者自叙辞典』は、その副題が示すごとく峡谷侯コルテス、司令官ナルバエス等と共に、またその後^にに当ヌエバ・エスパニヤに渡来し、当地の発見・占領・征服に参加せる者、当ヌエバ・エスパニヤ征服・入植者の妻子、当メキシコ市およびヌエバ・エスパニヤの諸都市、諸邑の住民中、所領配分関係事項で副王閣下宛て諸願陳情書を提出せる者達に関する報告』、『Relación de las personas que pasaron a esta Nueva España y se hallaron en el descubrimiento, toma e conquista della, así con el Marqués del Valle don Hernando Cortés, como con el capitán Pánfilo de los conquistadores e pobladores desta Nueva España, e otras personas que han dado peticiones e memoriales a vuestra Señoría Ilustrísima sobre lo tocante al repartimiento general desta tierra: así vezinos desta ciudad de México, como de otras ciudades e villas desta Nueva España...』で、各項目についての記載漏れ、報告漏れは相当多量の『一六世紀中葉における現地在住者達の居住地、本国出身地、到着時、従軍時の地位・役職、既婚未婚の別、家族

数、当時の経済状態等が判明する。ただし、この『自叙辞典』を編く際、注意すべきは、各諸願内容からみて、彼等のほとんどが生活困窮者であり、富裕な家族がこの『報告』には収録されておらず、したがって、これまた北方副王領居住者に関する部分像の把握に資しても、全体像の検討には十分でないことである。

チリーに関する T. Thayer Ojeda の『社会構成と人口調査』は、前記のスペイン本国側編纂史料のほか、『サンティアゴ大司教領文書』、『死者財産目録』、『ジェスイット教団文書』等の聖界文書と共に、「チリー国立文書館」収蔵になる多数の植民地文書に依拠し、入植者に関する記事を集録したものであり、当該四分の一世紀（一五四〇—一六五〇）間にチリー行政府管内——一五六三年まで同行政政府管轄下にあったトクアン、一世紀後に分離されたクエヨ両地方を含む——（の来着者、出生児を父姓に従ってアルファベット順に配列、各自の「年齢、生れ故郷、両親、家柄、身分、職業、肉体的道德的資質・欠陥、居住地、未婚既婚の別、疾病、死亡理由等、チリーの社会的基礎を構成する諸要素についてもっとも正確な概念を打出すのに役立つすべて」（序文）を、各事項に関して判明する限り、明示する意図で編纂されたものである。

アルゼンチンに関する R. de Lafuente Machain の『ラ・プ

「ラタ地方の征服者達」は、一六世紀、特に四総督——メンドーサ、ヌニェス、オルティス、マラニョーナ——統治期に渡来した入植者に関する伝記辞典型式の目録であり、その性格を規定して、「あるものは未刊行の、スペイン本国およびスペイン領アメリカの古文書から抽出した史料についての忍耐強く厄介な研究によって作られた独創的な労作、直接史料に基づく個人研究業績」(序論)と云うものの、個々の出典は、遺憾ながら、具体的に明示されていない。

それはともかく、この資料集から例えば、

「J・フグアード。オルティス指揮下の探險隊員。ウベダ出身。一五四八年生れ。農夫。中肉中背。前額部左寄りに傷跡あり。」

Aguado, Juan, Expedicionario con Ortiz de Zárate. Natural de Ubeda. Nació en 1548. Labrador. Cuerpo Mediano, señal en la parte dela frente.

「S・ロペス。オルティス指揮下の探險隊員。チャラーナ出身。一五五三年生れ。農夫。中肉中背。」 López, Sebastián, Expedicionario con Ortiz de Zárate. Natural de Chiclana. Nació en 1552. Labrador. Mediano, un beco hundido.

「F・メンサーノ。オルティス指揮下の探險隊員として兵籍あり。一五五一年アルバラード生れ。S・サンチャスの子。赤ひげ。

右手に傷跡あり。到来時不明。」 Manzano, Francisco, Alistrado como expedicionario con Ortiz de Zárate. Nació en Alvarado en 1551. Hijo de Salvador Sanchez, Barbirrojo, con cicatriz en la mano derecha. No consta su venida.

のとき具体的事例が示すように、各入植者の年令、出身地、職業、外見的特徴等が明瞭に判明する(出身県判明者数一、七〇八名)。

これら以外の植民地関係資料は、内容性格的に、以上略述した資料集と大同小異である上に、収録されている移住者数も少く、副次・補完的意義を持つにとどまる。

なお、この新世界移住活動に関する上述の諸資料に依拠して展開された現代研究文献として挙げべき論稿は以下の通りである。

José R. Cuervo, "El castellano en América", Boletín Hispanique, 1886, III, pp. 41-42.

Pedro Henríquez Ureña, "Observaciones sobre el español en América." Revista de Filología Española, tomo VIII, 1924, pp. 357-390; tomo XVII, pp. 277-284; tomo XVIII, pp. 120-148.

C. Pérez Bustamante, "La población de Nueva España en el siglo XVI", Boletín de la Biblioteca de Menéndez Pelayo, Año X, 1928.

Angel Rubio y Muñoz-Bocanegra, "La emigración extremeña a Indias", Siglo XVI, Revista del Centro de Estudios Extremeños, Badajoz, 1930, tomo IV, pp. 36 et seq.

V. Aubrey Neasham, "Spanish Emigrants to the New World, 1492-1592", *Hispanic American Historical Review*, Vol. 19, 1939, pp. 147-160.

Luis Rubio y Moreno, "Catálogo metodológico de las informaciones y licencias de los que allí pasaron, existentes en el Archivo General de Indias-Siglo primero de la colonización de América, 1492-1592", *Colección de Documentos Inéditos para la Historia de Hispano-américa*, tomo IX, pp. 5-216: esp. pp. 44-49.

C. Pérez Bustamante, "las regiones españolas y la población de América (1509-1534)", *Revista de Indias*, Año II, Núm. 6, 1941, pp. 81-120.

Richard Konezke, "La emigración de mujeres españolas a América durante la época colonial", *Revista Internacional de Sociología*, Tomo III, 1945, pp. 123-150.

J. Rodríguez Arzua, "Las regiones españolas y la población de América (1509-38)", *Revista de Indias*, Año VIII, Núm. 30, 1947, pp. 695-748.

Juan Friede, "The Catálogo de pasajeros and Spanish Emigration to America to 1550", *Hispanic American Historical Review*, Vol. XXXI, 1951, pp. 333-348.

Richard Konezke, *La emigración española al Río de la Plata durante el siglo XVI*, Madrid, MCMLIII.

Juan Friede, "Algunas observaciones sobre la realidad de la emigración española a América en la primera mitad del siglo XVI", *Revista de Indias*, Año XII, Núm. 49, 1952, pp. 467-496.

Peter Boyd-Bowman, "The Regional Origins of the Earliest Spanish Colonists of America", *Publications of the Modern Lan-*

guage Association of America, Vol. LXXI, 1956, pp. 1152-1172.

Peter Boyd-Bowman, "200,000 españoles pasaron a las Indias antes de 1600", *Mundo Hispánico*, núm. 115, 1957, pp. 23-28.

Ramon Carande, *Carlos V y sus banqueros: la vida económica en Castilla (1516-1556)*, Madrid, MCMLXI.

Juan Friede, "Los estamentos sociales en España y su contribución a la emigración a América", *Revista de Indias*, Año XXVI, 1966, núms. 103-104, pp. 13-30.

Peter Boyd-Bowman, "La procedencia de los españoles de América, 1540-1559", *Historia Mexicana*, Vol. XVII, 1967, núm. 1, pp. 37-71.

Encarnación Rodríguez Vicente, "Los extranjeros en el reino del Perú a fines del siglo XVI", *Homenaje a Jaime Vicens Vives*, Barcelona, 1965-67, Vol. 2.

これらの研究成果の論旨の概要は、若干を除くべからず、筆者が以下の小稿で紹介したので、それらを参照されたい。

近藤仁之「イヌパンニア人新世界渡航者に関する統計的序説（一六世紀）」アカデミア第六八集。

近藤仁之「メキシコ・オーストリア副王領（メキシコ）の人口趨勢と農業革命に関する統計的序説（近世前期）」アカデミア第七〇集。

(「エッセー」新自治大学助教授・)